

中部様式

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

尾鷲市地域公共交通活性化協議会
(尾鷲市)

平成20年5月28日設置

令和4年3月17日 尾鷲市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和4年4月～令和9年3月)

令和5年5月30日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

■地域の特性と背景

○本市は、市域の約 9.2 %が山林で、沿岸部には変化に富んだリアス式海岸が形成されるなど、豊かな自然環境に恵まれている一方、市街地周辺部には 10ヶ所の集落が点在し、それぞれの地域において過疎高齢化が進行していることから、これらの各地域の公共交通をいかにして結ぶかが重要な課題となっている。

■地域公共交通計画の目標及び期間

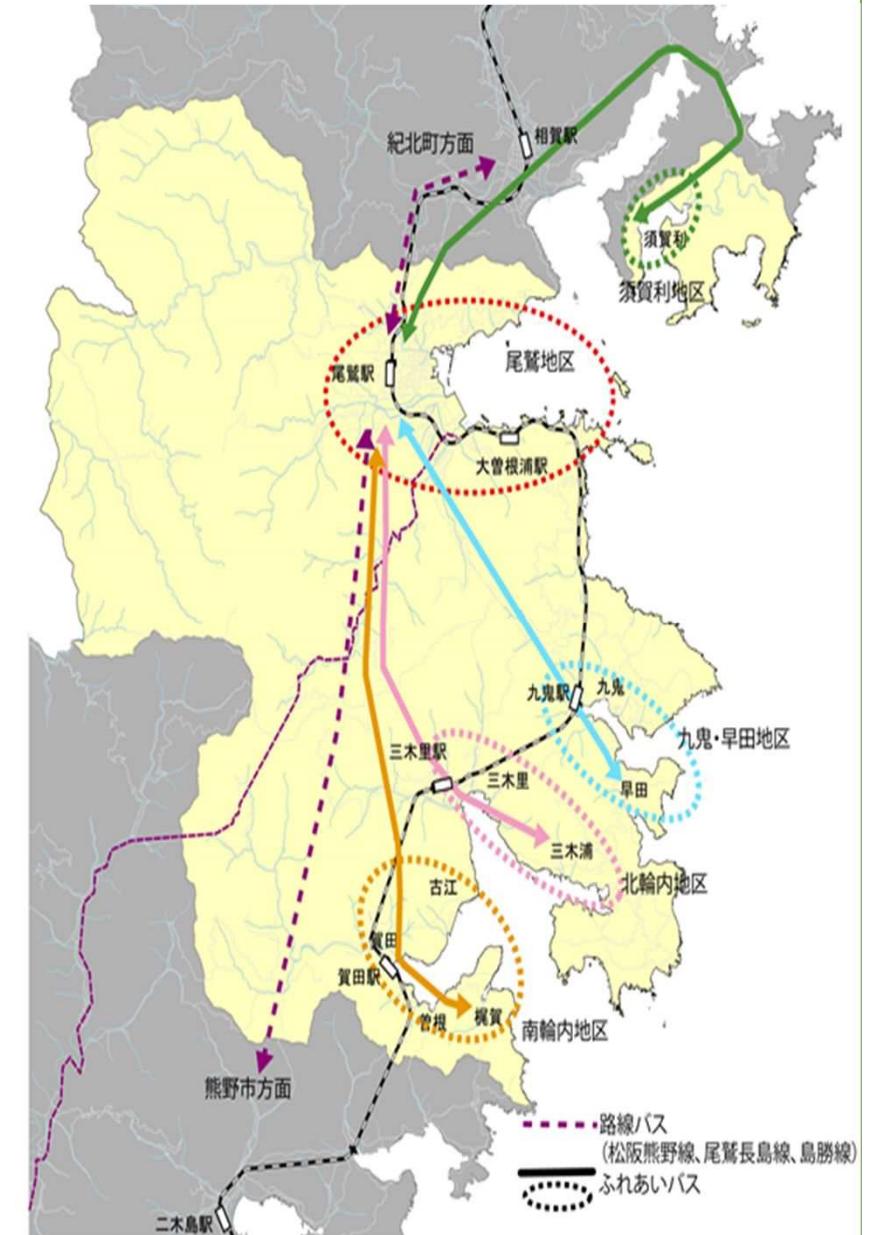
○目標 「持続可能で、誰もが快適に利用できる公共交通を目指します」

○期間 令和 4 年度～令和 8 年度

■公共交通の将来像

○基本方針

- ①地域ごとの特性に応じた公共交通網の形成とサービスの確保
- ②まちづくりと連携した総合的な地域公共交通の確保
- ③地域・団体と連携した取組の推進



2.目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 (Do)

3

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
★ふれあいバス尾鷲地区の運行（フィーダー補助受給系統）	コミュニティバスの運行を継続	<p>前年に比べて利用者が約1.2割減少 (20,504人⇒18,125人) (R 4.10～R 5.9)</p>	<p>本市市街地を中心に運行し、商業施設、観光施設の運行のほか、通院・通学の確保や公共交通不便地域の解消を果たすとともに、幹線（松阪熊野線、南紀高速バス、JR紀勢本線）と有機的に連携し、短距離移動においても利用可能なサービスを構築</p> <p>人口減少等により、利用していた方が利用しなくなったことによる利用者の減少が一つの要因と思われる。一方でダイヤに不便を感じている意見もあるため、ニーズに合ったダイヤの検討を実施し利用者の増加を図る必要がある。</p>
★ふれあいバス八鬼山線、ハラソ線、九鬼・早田線、北輪内線、南輪内線の運行（フィーダー補助受給系統）	コミュニティバスの運行を継続	<p>前年に比べて利用者が約0.01割減少 (30,842人⇒30,790人) (R 4.10～R 5.9)</p> <p>※令和5年4月より2路線を3路線に分割したため、今回の評価については、八鬼山線及びハラソ線の計と八鬼山線、ハラソ線、九鬼・早田線、北輪内線及び南輪内線の利用数の計を対比</p>	<p>大型の商業施設、病院、高等学校等のない地区センター管内と市街地を結ぶ路線を構築し、買い物、通院、通学のための移動手段を確保します。市内のみならず、幹線（バス、JR）と連携することで、利用者ニーズにきめ細かく対応した交通ネットワークを形成。</p> <p>「八鬼山線」、「ハラソ線」の2路線を分割し、「九鬼・早田線」、「北輪内線」、「ふれあいバス南輪内線」にすることで、意見や要望の多かった通院、買い物、昼食時間、市街地への増便、地域間幹線系統への接続に対するダイヤの工夫や所要時間の短縮に伴う利用者の利便性の向上や増加に取り組んだことにより利用者については、人口減少等があるなかで維持できている。</p> <p>令和4年4月から9月と令和5年4月から9月を比較すると利用者が増加している。</p>
★ふれあいバス須賀利地区の運行（フィーダー補助受給系統）	コミュニティバスの運行を継続	<p>前年に比べて利用者が約2割増加 (1,368人⇒1,680人) (R 4.10～R 5.9)</p>	<p>既存の幹線路線である島勝線へ接続し、安定した輸送サービスを確保するとともに島勝線の利用者の増加に繋げ、須賀利地区の運行により支線としての役割を果たしながら広域幹線路線が継続的に運行できるサービスを提供</p> <p>須賀利地区では、高齢化率が約90%であり、人口が約180人である。人口減少等の背景がある中、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したこと、利用者数が戻ったことにより増加</p>

2.目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組 (Do)

4

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
利用者等のアンケート実施(毎年)	バス車内、停留所において利用者アンケート及び市民無作為抽出1,000人に対しアンケート実施	利用者及び非利用者問わず、全体的な意見を聴取することができ、改善するべき点が、より明確になった	毎年アンケートで利用者の満足度調査を行っている。過去から現在までの状況と未来に向けての対策等を行っていくための重要な取組であり、今後も継続して実施予定。なお、満足度だけでなく、備考欄も設けており、利用者の要望や改正した内容への満足が把握することができる。また、利用者のみではない全体の意見を聴取することにより、これまで以上に利便性などの向上を図る。
公共交通に関する市民説明会の実施(R5)	ふれあいバス尾鷲地区のルート・ダイヤ改正案による「市民説明会」を3回実施	ルート・ダイヤ改正及び現在運行のダイヤに対する意見や要望などが明確になった	令和4年3月に策定した「尾鷲市地域公共交通計画」における「尾鷲市地域公共交通計画」における「公共交通ネットワーク軽視の基本方針」に基づき、ふれあいバス尾鷲地区における4時間の運行が空いているダイヤの解消をするため、令和6年4月1日からの運行を目指して実施した説明会であり、ルート・ダイヤ改正に対する意見や要望が明確になった。一部ダイヤ運休を含む改正であったが、概ね住民の同意が得られた。
総合時刻表の作成	公共交通の周知及び利用促進につなげるため、公共交通の時刻表を作成し全戸配布した。また、HPにも掲載した。	市内全戸に自治体広報誌に折り込み同時配布	配布のみで効果検証は出来ていないため、今後の課題として効果検証の方法を検討していく。

3.計画の目標の達成状況とその理由についての考察 (Check)

5

計画目標・評価指標	達成状況	考察
市民満足度 の向上	利用者満足度 1~5の5点換算 満足 5 おおむね満足 4 普通 3 やや不満 2 不満 1	未達成（令和5年度） 目標値：3.80 実績値：3.74 尾鷲地区の運行ダイヤの改正についての要望が多いことが未達成の大きな要因。ダイヤ改正などを行い、満足度の向上に取り組む必要がある。
	利用者数 ※年度途中（令和5年度） 実績値（4月～9月）： 25,444人/年 目標値：53,310人/年	令和5年度は年度途中であるため実績値がなく、達成状況が把握できないが、半年間の利用者数では、目標達成が厳しい数値である。 利用者アンケートの回答者の多くが60歳以上であることから、利用者が固定化されていると推測される。 人口減少等の背景もあることから利便性を増進しつつ地域公共交通の存在を多くの人に知ってもらい、新たな利用者の増加を実現する必要がある。
持続可能性 の向上	収支率 ※年度途中（令和5年度） 実績値（4月～9月）： 13.61% 目標値：17.4%	令和5年度は年度途中であるため実績値がなく、達成状況が把握できないが、半年間の収支率では、目標達成に届かない数値である。 委託費の増加などにより厳しい状況ではあるが、停留所の改善や一部ルート・ダイヤ変更などを行い、利用者数の増加に伴う収支率の向上を実現する必要がある。

計画目標の現在 の到達点	今後の取組方針
利用者満足度は、現状では未達成であり、去年より向上している	<p>令和5年度の利用者アンケート調査で、満足度の評価を、「運賃」、「本数」、「時間帯」、「経路」、「バス停位置」、「乗り継ぎのしやすさ」、「待合環境」の7項目で行なった。その中で最も多いニーズは、「本数」及び「時間帯」である。これらのニーズのうち最も要望が多いものは、一番活動の多い昼間の時間帯で、尾鷲地区では4便と5便の間が4～5時間程度の間隔があり、その不満が多いことがアンケートの回答などから分かった。</p> <p>また、引き続き停留所の屋根やベンチの設置についても要望が多かった。</p> <p>利用者アンケートの回答者の多くが60歳以上であることから、利用者が固定化されていると推測される。</p>
利用者数は、現状では目標値達成が厳しい数値であり、減少傾向にある	<p>⇒令和4年度より地域公共交通計画が策定され、より利便性が高く持続可能なダイヤ・ルートを目指していくなかで、上記ニーズの実現へ向け、計画における「公共交通ネットワーク形成の基本方針」に基づき、「ふれあいバス尾鷲地区」の4～5時間空いている時間帯を解消するため増便を含むダイヤの改正を行い利用者の利便性の向上を図る。</p> <p>令和5年7月には地区説明会を開催しており、概ね原案に対しての住民同意が得られたことから、令和6年度より運行を実施する。</p>
収支率は、現状では目標値を達成できない数値である	<p>⇒ベンチ設置の要望が多いことから、乗車数が多く、設置が可能な場所において、随時ベンチの設置を行っている。今後も継続して検討、実施を行い、利便性の向上を図る。</p> <p>⇒新たな利用者の確保を行うため市民はもとより、観光者などの外部の方にも情報を周知しつつ、「乗り方教室」等を開催し、利用促進を図っていく。</p> <p>⇒委託費が年々増加していることもあり、バスの小型化などを検討し、委託費の削減を目指す。</p>

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

7

年度	直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	利用者に対する定期的なアンケートの実施及び、各地区で「公共交通に関する市民懇談会」を開催することで、住民・利用者の公共交通のニーズの把握に努めている。	市民無作為抽出1,000人に対しアンケート実施 利用者に対して、アンケート実施ルート・ダイヤ改正案に対する市内3か所の「公共交通に関する市民説明会」実施	引き続き利用者アンケート等を実施し、ニーズ把握に努める。
	コミュニティバス八鬼山線、ハラソ線を総合的に見直すことにより利用促進につながることを期待します。	令和5年4月より、2路線を分割し「九鬼・早田線」、「北輪内線」及び「南輪内線」とし運行を開始。	利用者ニーズを実現できるよう、尾鷲市地域公共交通計画の中で、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。
	市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、引き続き、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します	県や関係者との連携した取組について、県主催の会議や公共交通活性化協議会等を通じて検討	引き続き県や関係者との連携した取組について検討を行い、持続可能な事業の実施を行っていく。

※前回:令和5年3月10日

5.直近2年間の二次評価の活用・対応状況

8

年度	直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前々回	利用者に対する定期的なアンケートの実施及び、各地区で「公共交通に関する市民懇談会」を開催することで、住民・利用者の公共交通のニーズの把握に努めている。	市民無作為抽出1,000人に対しアンケート実施 利用者に対して、アンケート実施ルート・ダイヤ改正案に対する市内8か所の「公共交通に関する市民説明会」実施	引き続き利用者アンケート等を実施し、ニーズ把握に努める。
	今年度策定予定の次期地域公共交通計画に位置づけた取組を着実に推進されることを期待します。	尾鷲市地域公共交通計画で定める「公共交通ネットワーク形成の基本方針」に基づき、八鬼山線、ハラソ線のルート・ダイヤ改正を検討し、来年度から新たな運行を開始する。	利用者ニーズを実現できるよう、尾鷲市地域公共交通計画の中で、持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組んでいく。
	今後もコロナ禍においても安心して公共交通を利用してもらえるよう、公共交通における新型コロナウイルス対策をPRすることにより、利用促進につなげられることを引き続き期待します	飛散防止フィルムの設置や、バス車内の消毒・清掃などを実施	他の利用促進策とともに、新型コロナウイルス感染症対策のPRを行っていく。
	市内を運行する地域間幹線系統のうち輸送量が低迷している系統について、引き続き、利用促進や系統維持に向け県や関係者と連携して取組を実施されるよう期待します	県や関係者との連携した取組について、県主催の会議や公共交通活性化協議会等を通じて検討	引き続き県や関係者との連携した取組について検討を行い、持続可能な事業の実施を行っていく。

※前回:令和4年3月10日

6. 計画・評価の推進体制

9

■毎年度のP D C Aスケジュール

	第1回 (5月～6月頃)	第2回 (10月頃)	第3回 (12月～1月頃)
コントロールとなる行事等	生活交通確保維持改善計画提出	次年度予算要求	第三者評価委員会
協議・報告事項等	・生活交通確保維持改善計画等の作成 ・前年度の決算確認 ・当該年度の予算決定等	・次年度事業計画、予算案等	・事業評価 ・改善方向 ・次年度の事業計画の策定等
P D C Aサイクル	Plan	Do	Check Action

【協議会の実施状況】

- 令和5年1月17日（第3回） 事業評価について協議・承認
令和4年度補正予算（第2号）について協議・承認
令和5年度事業計画（案）及び令和5年度予算（案）について協議・承認
- 令和5年5月30日（第1回） 令和4年度決算報告について協議・承認、
令和6年度フィーダー系統確保維持計画について協議・承認
令和5年度補正予算（第1号）について協議・承認

・公共交通に関する市民説明会 令和5年7月25日・26日、8月2日
- 令和5年11月15日（第2回） ふれあいバス尾鷲地区のルート・ダイヤ改正、路線延長及びバス停新設について協議・承認
令和6年度フィーダー系統確保維持計画の変更について協議・承認
- 令和6年1月16日（第3回） 事業評価、令和6年度事業計画（案）及び令和6年度予算（案）、尾鷲市地域公共交通計画の改正について協議

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 尾鷲市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名、路線名、設備名、運行(航)時間、整備内容等を記載】(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査斟酌)の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載】改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載	
三重交通	尾鷲市コミュニティバス八鬼山線 尾駅～三木浦～三木里駅 尾駅～九鬼駅～コノワ 正義山～三木浦～三木里駅	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B 令和5年4月より新たな路線(九鬼・早田線、北輪内線、南輪内線)と新たに新たな路線において評価を行う。	令和4年度より新たな公共交通計画が始まり、その中の持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組み、八鬼山線及びハラソ線を総合的に見直し、聞き取りなどで要望が上がった事項について検討し、令和5年度から2路線から3路線へと変更したルート及びダイヤ改正を行った。【令和5年3月事業完了】
三重交通	尾鷲市コミュニティバスハラソ線 尾駅～三木里駅～梶賀 瀬木山～三木里駅～梶賀	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B 令和5年4月より新たな路線(九鬼・早田線、北輪内線、南輪内線)と新たに新たな路線において評価を行う。	令和4年度より新たな公共交通計画が始まり、その中の持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組み、八鬼山線及びハラソ線を総合的に見直し、聞き取りなどで要望が上がった事項について検討し、令和5年度から2路線から3路線へと変更したルート及びダイヤ改正を行った。【令和5年3月事業完了】
三重交通	尾鷲市コミュニティバス九鬼・早田線 尾駅～九鬼駅～三木浦 瀬木山～九鬼駅～三木浦 瀬木山～九鬼駅～早田	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(1～5の5点換算)、目標の3.55に対して3.51となり、目標を下回った。 聞き取りから、本数及び時間帯への要望が多く、これらに対する意見が原因だと考えられる。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう実施を継続していく。
三重交通	尾鷲市コミュニティバス北輪内線 尾駅～三木里駅～コノワ 瀬木山～三木里駅～コノワ	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(1～5の5点換算)、目標の3.81に対して4.31となり、目標を達成した。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう実施を継続していく。
三重交通	尾鷲市コミュニティバス南輪内線 尾駅～賀田駅～梶賀 瀬木山～賀田駅～梶賀	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(1～5の5点換算)、目標の4.07に対して3.91となり、目標を下回った。 聞き取りから、本数及び時間帯への要望があり、これらに対する意見が原因だと考えられる。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう実施を継続していく。
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス尾鷲地区 尾駅～天満堤防～紀伊松本 尾駅～天満堤防・夢古道おわせ前～紀伊松本 尾駅～夢古道おわせ前～紀伊松本 尾駅～光ヶ丘～尾鷲駅	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。また、前年度から継続している、項目を7つに細分化しニーズの詳細な把握を行った。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。 公共交通に関する市民説明会を実施。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(1～5の5点換算)、目標の3.81に対して2.92となり、目標を下回った。 ダイヤの改正の要望が多く、それに対応できていないことが原因だと考えられる。	バスナビゲーションシステムを導入し、概ね住民の同意が得られたため、要望のあった4時間程度の運行が空いているダイヤの解消を行うダイヤ改正を実施し、令和6年度から運行を開始する。 引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう実施を継続していく。
尾鷲市	尾鷲市コミュニティバス須賀利地区 旧小学校前～漁協前～島勝 旧小学校前～漁協前～尾鷲総合病院	利便性の更なる向上、利用状況の要因分析のため、利用者に対するアンケート調査を継続実施した。 また、利用者以外にも無作為抽出の市民1,000人を対象にアンケートを実施した。	A	A 運行計画日数を計画どおり運行し、事業は適切に実施された。	B アンケート調査(聞き取り調査)において、満足度調査を行い(1～5の5点換算)、目標の3.81に対して4.05となり、目標を達成した。	引き続き利用者アンケートを実施し、ニーズ把握に努め、今後それらの利用者ニーズを実現できるよう実施を継続していく。

尾鷲市地域公共交通計画の評価等結果（令和5年4月～令和5年12月）

目標	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	備考
ふれあいバスの利用者満足度 ○実績（令和3年度） 八鬼山線 3.41 ハラソ線 3.93 尾鷲地区 3.66 須賀利地区 3.66 平均 3.67 ○令和8年度目標 平均 4.00 （令和2年度と同水準）	停留所の改善や一部ルート・ダイヤ改正などを行い、満足度の向上に取り組む。 地区説明会の開催	バス車内、停留所において利用者アンケート及び市民無作為抽出1,000人に対しアンケート実施	(令和5年度) 目標値：3.80 実績値：3.74 目標は未達成だが、アンケート調査などにより、住民のニーズに対応した、停留所の改善や一部ルート・ダイヤ改正を実施したが、要望に関してはまだ多くあり、改善に向けて検討、実施を行う。	計画における「公共交通ネットワーク形成の基本方針」に基づき、「八鬼山線」、「ハラソ線」の2路線を分割し、「九鬼・早田線」、「北輪内線」、「南輪内線」の3路線にすることで、意見や要望の多かった通院、買い物、昼食時間、市街地への増便と所要時間の短縮に伴う利用者の利便性の向上を図る取組を令和5年度より実施した。 尾鷲地区で要望の多い、4～5時間程度の間隔を解消するため関係地区に市民説明会を令和5年7月・8月に開催し、ダイヤ改正についての同意が得られたことから、令和6年4月から運行を実施する。 ベンチ設置の要望が多いことから、乗車数が多く、設置が可能な場所において、随時ベンチの設置を行っている。今後も継続して検討、実施を行い、利便性の向上を図る。	
利用者数 ○ふれあいバス（令和2年度） 47,351人/年 ○令和8年度目標 ・ふれあいバス 56,000人/年 (H29年度同等水準)	停留所の改善や一部ルート・ダイヤ変更などを行い、利用者数の増加に取り組む	交通事業者からのデータ	令和4年度 実績値：51,526人/年 ※年度途中（令和5年度） 実績値（4月～9月）：25,444人/年 目標値：53,310人/年 令和5年度は年度途中であるため実績値がなく、達成状況が把握できないが、半年間の利用者数では、目標達成が厳しい数値である。人口減少等の背景もあることから利便性を増進しつつ地域公共交通の存在を多くの人に知ってもらい、新たな利用者の増加を実現する必要がある。	上記事項に加え、利用者を増加させるため、利用促進を行っていく。令和4年度に行った公共交通に関する懇談会の中でも、時刻表の見方が分からなかったり、時刻表の見方が分かれれば、便利に使うことができると思った市民の方がいたことなどから、「乗り方教室」を開催し、利用促進を図る。	
収支率 令和4年度 ・ふれあいバス 実績値：14.27% ※年度途中（令和5年度） ・ふれあいバス 実績値（4月～9月）：13.61% 目標値：17.4%	停留所の改善や一部ルート・ダイヤ変更などを行い、利用者数の増加に伴う収支率の向上を実現した	市データ	令和4年度は年度途中であるため実績値がなく、達成状況が把握できないが、半年間の収支率では、目標達成がわずかに届かない数値である。委託費の増加などにより厳しい状況ではあるが、停留所の改善や一部ルート・ダイヤ変更などを行い、利用者数の増加に伴う収支率の向上を実現した。	上記事項に加え、委託費が年々増加していることもあり、バスの小型化などを検討し、委託費の削減を目指す。	

(記載に当たっての留意事項)

- 本様式中、表題の「（〇年〇月～〇年〇月）」の部分には、評価等の対象となる期間を記入してください。
- 毎年度の評価になじまないような目標や、数年おきの評価を予定している目標については、「備考」の欄にその旨を明記の上、「目標」及び「備考」の欄以外は「-」と記載して下さい。
- 一つの目標と複数の取組が対応している場合や、複数の目標と一つの取組が対応している場合には、適宜欄を修正の上、記載を行ってください。
- 月ごとの利用者数の推移等の詳細データや、地域公共交通計画の評価等に係る協議会における議論の結果（議事録等）等の関連資料がある場合には、併せて添付して下さい。
- 地方公共団体・協議会等において独自に作成している評価等の様式が既にある場合や、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価を行った報告様式がある場合には、参考資料として添付して下さい。